

Let's learn English with a song!

長崎県大村市立桜が原中学校
高見 龍也



はじめに

まず、3ページ目の一覧表をご覧ください。皆さんは、この一覧表を見て何の表だと思われるだろうか？この表は、教科書の文型・文法項目の定着を図るために教える「文法項目と対応した英語のポピュラー曲」の一覧表である。私は、自分自身が中学・高校時代と外国のポピュラー曲が好きで友人達とバンドを組んで楽しんでいたこともあって、ここ5年間授業にこれらの曲を取り入れて指導している。

英語の先生方の中には、外国のポピュラー曲を授業で聴かせたり教えたりする方も時々いらっしゃると思う。私の教え方の最大の特徴は、過去の自分の好きな名曲と思われるものの中から、「生徒に教えている文法項目を定着させるための一番適切な曲を選ぶこと」にある。ここで重要なのは、定着させたい文法項目が頻繁に、もしくは印象的に歌詞に出てくる曲が何かを念入りに吟味することである。時には、1曲を選ぶために200曲ほどの歌詞カードに目を通したこともあった。

いくつかの研究発表会などでこの指導方法を発表したところ、このような選曲の視点は「とても参考になる」と好評であった。

なぜ歌なのか

ギリシャの哲学者プラトンの著書『国家』第4巻の中に、「音楽・文芸における違法というものは、少しずつ入り込んで住みつき、じわじわと目立たぬように人々の品性と営みの中へ流れ込んでいく」という一節がある。すなわち逆に考えれば、教師が好きなメロディーや歌詞で、なおかつ教科書の文法の定着を図るのに好ましい曲であれば、知らず知らずのうちに生徒の人格形成にも教師の望む影響を与えていることとなる。道徳の授業で「このような人格であ

れ」と伝えることは別の角度から人格を形成することにもなる。例えば、*Hey Jude* の歌詞の中には、「ねえ、ジュード、くよくよするなよ。悲しい歌でも気分一つで明るい気持ちになれるさ」とか、「だから、心を開いて素直に受け止めるんだ。ねえ、ジュード、始めるんだ」など、とてもいいフレーズがでてくる。また、教師の好きな曲のメロディーが生徒に浸透していくことは、言葉ではなく、感情に訴えながら影響を与えていることになると思っている。それゆえ、現在ヒット・チャートの上位にある曲の中から選曲するというにはあまりこだわっていない。(もちろん、現在ヒット中の中で、前述の2つの条件を満たすものを探すのがよりよいかもしれないが、ラジオをつけてエアチェックをするだけの時間がとれないといったほうが正確かもしれない。)また過去の名曲は、ほとんどの生徒達がすぐに好きになる。特に *Let It Be* と *Hey Jude* は、好きになる生徒が多い。

詩の持つメッセージと音楽の美しさから文型・文法事項とは関係なく扱う歌もある。*We Are The World (USA For Africa)* では、人類愛・博愛心を、*Top Of The World (The Carpenters)* では恋することの素晴らしさを、*Honesty (Billy Joel)* では誠実に生きる悩み・苦しみを考えたいという願いを込めて教えている。(この3曲は *NEW CROWN* 指導用テープ・CD に収録されている。)

この指導方法の利点

さて、この指導方法の目的は、もちろん生徒に文法項目の定着を図ることが最大の目的であるが、他にも多くの利点があると思っている。例えば、

1. 休み時間が終わり英語の授業に入る時、私から見ると生徒達は体のリズムと頭の中が「遊



びチャンネル」「日本語チャンネル」になっており、「英語チャンネル」になっていない。それ故、英語のポピュラー曲を導入に使うことによって、曲を聴き終わった時には、体と頭の中がかなり「英語チャンネル」に変化する。

2. 教師にとっても自分の好きな曲の中から選曲すればいいので、授業の初めにその曲を聴くことで、とてもいい気分でも明るく授業を始めることができる。
3. 生徒がその曲を気に入れば自分でCDを購入したりレンタルをしたりして、家で何回も繰り返し聴いてその曲を聞き、諳じて歌えるように努力する。したがって教師が指示をしなくても授業以外の場で自然と、授業で教えた文法項目や教科書以外の多くの英単語を暗記したり、リスニングの練習をすることになる。
4. 英語のポピュラー曲をとおして英語のリズム感の体得をすることは、英語で話す力の向上などにも良い影響を及ぼすと思われる。これは、世界各国で幼児期に童謡などを歌いながら自然と言語能力を育てていることから予想できよう。(実践的コミュニケーション能力の基礎を作ることに役立つと思う。)
5. 文法項目の定着にとどまらず、リスニングの能力を高めることができる。この点を実証するために、私の教える3年生のA、B、Cの3つのクラスにおいて、ある実験を行ってみた。まず「関係代名詞thatの主格・目的格用法」の文法項目を教えた。そして、Aのクラスには、*From Me To You*、*Hey Jude*の2曲を教え、曲を聴く時や歌う時に留意する音声変化(リエゾン、アシュミレーション*)の箇所にも言及し、私の担任のクラスでもあるため3週間ほぼ毎日(合計15回)英語の授業の開始時や帰りの短学活で2曲のうちどちらかを聴かせ続けた。またBのクラスには、英語の授業の開始時のみ*From Me To You*の曲を聴かせることに限定し、合計6回聴かせた。そして、Cのクラスには、文法項目のみを教

え、3週間全く曲を教えず、聴かせなかった。すると、明らかに3週間前に比べて、Aのクラスでの聴解力の向上が著しかった。(紙面の都合で詳しい実験データは割愛するが、昨年の九州地区英語教育研究大会の分科会でデータとともに発表させていただいた。)

(*リエゾン：an eggのように2つの単語の音声の結びつきで新しい発音が生じること。アシュミレーション：Does sheのように2つの単語の音声の結びつきで音声同化すること。)

この指導方法の手順

1. *NEW CROWN*の各レッスンのPOINT(文型・文法項目)を板書しながら説明する。
2. 練習問題で、POINTの定着を図る。
3. POINTに関連した曲を選曲し、なるべくそのミュージシャンがその曲を演奏して歌っている場面をビデオを使って見せる。CDで曲を聞かせるだけより、映像によって生徒の感動を高めるのが狙いだ。生徒が「カッコイー！」と思えばしめたもの。学習意欲ががぜん高まる。(ビートルズなどの演奏をテレビで放映したものを録画するなど、普段からアンテナをはっておくとよいだろう。また*NEW CROWN*指導用テープ・CDでもいくつか名曲が取り上げられているので、これを利用することもできる。)
4. 英語のみの歌詞カードを生徒に配り、CDを聞かせながら目で追わせ、リスニングで注意を払ってほしい箇所は、空欄にして書き入れさせる。(生徒は、夢中で曲を聞かだろ。)
5. 教師が、その歌詞の訳を教えながら教科書に出てきた注意すべき文法項目には特に念入りに解説していく。生徒達の関心を高めるために、そのミュージシャンについての情報や、この歌が作られた背景なども織り込んで話していくので、通常は1時間全てをこの解説についやす。
6. 次の授業からそのレッスンが終わるまで、毎時間授業の冒頭にその曲をCDで流し、生徒は歌詞カードを目で追ったり、口ずさんだりして、文型・文法項目の定着を図る。(教える項目によっては、3、4、5の手順を先に行うこともある。)

先生方の危惧される点について

私が、5年前にこの指導方法を始めるにあたって、いくつかの危惧する点があった。例えば、2年生に教える曲の歌詞の中にまだ習っていない文法・文法項目や英単語がでてくるので、「かえって生徒の頭の中が混乱するのではないか?」「生徒の負担が大きすぎるのではないか?」という心配があった。それゆえ、私が歌詞を説明する時には「これは来年習うことなので詳しくは説明しないが、have, hasの後に動詞の過去分詞形がくると3つの意味のとり方がある。テストにはその文法や、教科書にでてこない単語は出題しないけど、頭の片隅にでもおいておいて……」という言葉で安心感を与えた。過去5年間で1度も生徒や保護者からこの指導方法への不満の声はあがっていない。むしろ「堅苦しくない授業でいい」「親も若い時によく聴いた曲なので家庭で共通の話題が増えた」などと好評のようである。

さいごに

ポピュラー曲を使った指導方法を取り入れて5年になるが、なかなか好評であり、それなりの成果も上がっているようである。

また、もちろん私の授業では教科書の指導とこの外国のポピュラー曲を使っての指導のみに終始しているわけではなく、他にも教科書の暗唱テスト（意欲のある生徒は1年間で教科書の本文全部を暗唱してしまう）やサンキューカード（休み時間などにALTと会話した生徒にALTがサンキューカードをあげて、それを生徒が私に提出することによってALTとのコミュニケーションの動機づけとし、評価につなげる方法）、ビデオ、映画を使っての指導など様々な工夫しているつもりである。しかし、この外国のポピュラー曲を使っての指導は、様々な効果を期待できる指導方法の1つとして今後とも続けていきたいと思っている。

文法項目	曲目	文法項目	曲目
現在進行形	Sailing (Rod Stuart)	現在完了形	Long And Winding Road (The Beatles)
過去形(不規則動詞)	Please Please Me (The Beatles) Yesterday (The Beatles)		Have You Ever Seen The Rain? (CCR)
助動詞 will / must	I'll Follow The Sun (The Beatles)	関係代名詞 who	You've Got A Friend (James Taylor)
There is(are) ~.	Till There Was You (The Beatles) In My Life (The Beatles) Imagine (John Lennon)		Your Song (Elton John)
接続詞 if	If (Breed)	関係代名詞 that	From Me To You (The Beatles)
接続詞 when	Let It Be (The Beatles)	関係代名詞目的格の省略	Every Breath You Take (The Police)
比較級	Take Me Home, Country Roads (John Denver) Help! (The Beatles)	make + O + C	Hey Jude (The Beatles)
不定詞	I Just Called To Say I Love You (Stevie Wonder) Ebony And Ivory (Paul McCartney & Stevie Wonder) Anytime At All (The Beatles)		
動名詞	Love (John Lennon)		
受動態	Amazing Grace (Juddy Collins)		

三省堂英語教育・中学編 別冊

2001年5月10日発行

編集・発行人 渡辺孝映

発行所 株式会社 三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14

電話 03(3230)9421

電子メール newcrown@sanseido-publ.co.jp

ホームページ <http://www.sanseido-publ.co.jp/>